

2015 年後期助成金報告書

事業名：緊急避難施設における入所者並びに退所者への回復及び自立支援プログラム

公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会

女性の家 HELP

コード番号：15-A-410

1. 活動の目的

女性の家 HELP は、DV 被害、人身取引被害、居所がない等「今晚帰る家のない」状況下にある女性や子どもたちを受け入れる緊急避難施設（シェルター）である。施設入所段階の利用者は、疲労困憊しており、ゆっくり休息して今後の新生活の計画を立てる必要のある方がほとんどである。多くの場合、施設滞在期間は 2 週間程度と短い、次の居所が定まるまでしばらくの時間を要する場合もある。

女性の家 HELP では、さまざまな困難な状況にある女性や子どもたちが、入所中、十分な休息を得、また新生活に必要な心身のコンディションを整え、英気を養うことができるよう、それぞれのニーズに応じたケアを行っている。

具体的には、以下に示すようなミュージックセラピーや、季節ごとの小行事、お出かけ行事などである。それらのプログラムを通し、自らの不安を軽減したり、物事に取り組む意欲を引き出したりすることを目的とし、施設入所者や退所者の回復及び自立支援を促進し、彼女たちの新生活がより充実したものになるよう目指している。

なお、今回は、年度変わりのスタッフ体制の変動の影響により、助成金申請当初に予定をしていた季節行事（春のお花見、夏の海水浴など）は行うことが出来なかったため、その代替行事を含んだ以下のプログラムを実施した。

2. 活動の実施内容と実績

1) ミュージックセラピー

現在、女性の家 HELP では、利用者のケアプログラムの一環として、ミュージックセラピストによるミュージックセラピーが中心的役割を果たしている。セラピーは、年間を通して月 3 回以上行われ、その時々 HELP を利用している女性や子どもたちのうち、関心のある方を対象に実施されている。普段は触ることのできない珍しい楽器の音を聴き、実際に手で触れ、身体に響く音色を確かめながら、時間の経過とともに心が動き出すのを体験する、いわばシェルターにおける「非日常的な時間と空間」であり、セッションの前と後では、参加した利用者の心と身体健康度が変化する効果的なプログラムである。

本助成事業実施期間中に行われたミュージックセラピー（クリスマス会・ハローウィン除く）は総計 33 回、参加者は子どもも含め、延べ 96 名である。

② 外国籍児童への日本語学習指導

外国籍児童の中には、来日から日が浅く、日本語の理解や会話能力が十分でない児童がいる。本助成事業実施期間中に入所したこのような中学生に対し、**HELP**での短い滞在期間中に、日本語教師を派遣依頼し、日本語学習指導を行った。

内容は、学校生活を送るに最低限必要な日本語に絞り、4回実施した。当該中学生及びその母親には、新生活に即役立つ「自分だけのオーダーメイドプログラム」として大変喜ばれた。

③ 2015年クリスマス会

クリスマス会は、年に一度、退所間もない施設元利用者及び関係機関・団体の方々とともに実施している。

2015年12月実施のクリスマス会は、二部構成で、一部は関係機関・団体の方々を対象とした現況報告と日頃の活動支援への感謝会、二部は施設元利用者を中心に退所後のフォローアップを兼ねたクリスマスお祝い会を行った。それぞれ参加者は、一部33名、二部は子どもを含め44名である。

一部は軽食付き、二部はスナック等を中心に、ビンゴゲーム、ミュージックセラピーなどのプログラムを行い、賑やかに退所後の変化や成長について語り合う機会となった。

④ 七夕まつり

7月には、季節行事の一つ（七夕まつり）として、七夕にちなんだお菓子を囲み、当時の入所者とともに特別なおやつタイムを提供した。外出のあまり得意でない入所者を含み、なごやかな雰囲気のひとつを過ごすことができた（資料参照）。

⑤ サンシャインプラネタリウムと水族館見学

8月上旬には、夏のお出かけ行事として、サンシャインプラネタリウムと水族館見学を実施した。参加者は、外国籍の入所者も含んだ8名である。外国語イヤホン設備のあるプラネタリウムに助けられ、元気に泳ぐ魚や動物たちに歓声をあげた。

「海へ山へ」といった雰囲気となる夏休みの時期、さまざまな困難な生活課題に日々取り組まねばならないしんどさを一時忘れ、楽しい時間を持つことで新たなエネルギーを培う貴重な経験となった。

⑥ 品川アクアパーク見学とランチ

9月下旬には、秋のお出かけ行事として、品川アクアパーク見学とランチを実施した。参加者は、妊娠中の女性を含め6名である。都心にあつて、イルカショーを楽しみ、参加者の満足度の大変高いプログラムであった（資料参照）。

⑦ サンシャイン水族館&ランチ（中華）

10 月下旬には、8 月上旬と同様のプログラムで、サンシャイン水族館と中華ランチのお出かけ行事を実施した。参加者は、6 名である。HELP は、滞在期間が短期の施設であるため、⑤のお出かけ行事の際の参加者とは全く別のグループでの実施となった。

ご高齢の参加者用に車椅子の利用を見込んで事前に準備をしたが、当日はご自分で歩くことを希望なされ、使用はしなかった。施設入所者の参加者数は多くはなかったが、マンツーマン対応や、食事の際テーブルを分けるなどの配慮を要し、結果、参加者に満足していただける外出となった。

⑧ ハローウィンターパーティー

10 月下旬には、ハローウィンの仮装をし、ミュージックセラピストによる特別プログラムの後、おやつの時間をとるとするというハローウィンパーティーを実施した。参加者は、入所者、退所者を含め 6 名である。広報がぎりぎりだったため、退所後の施設見学等の予定が急に入り、参加できなかった入所者もいらした。コスチュームは、全身、半身用のコスチューム 9 着、カチューシャ 8 種類を準備した。



ハローウィンコスチュームいろいろ

ミュージックセラピストによるハローウィンの BGM やキーボード演奏のリードで、ダンスや、大きな布を用いて身体を使いながらリラックスするセッションなどに参加した。楽しい雰囲気の中で、普段口数が少なく人付き合いの苦手な方が、スタッフも含め手をつないでダンスをするなどの光景が見られた。また、HELP 退所後、ひとり暮らしとなった高齢者は、この時を心待ちにして、存分に何気ない会話やコスチュームを着ての「変身」を楽しんだ。



「はい、今度は大きく〜！」 ～ ミュージックセラピー ～



ハロウィーン特別ティータイム

その後、季節限定の高級お菓子と、特別な機会だけに使用する高級お茶セットで、

団らんの時を持った。「とても楽しかったです」「ひとりではできないけれど、みんなであればできちゃいますね」といった喜びの感想が述べられた。

⑨ ミュージックセラピー用楽器購入

HELP では、従来から、施設利用者のストレスや不安軽減のため、ミュージックセラピーを実施してきたが、使用する楽器は、赤ちゃんから小・中学生、若い女性など幅広い年齢のセラピーで用いられ、中には経年による劣化が著しく、買い替えの必要性の高いものがあった。例えば、ギターは、赤ちゃんに弦を触らせたり、小学生が比較的乱暴に演奏したりして、弦のみならず、本体の損傷も見受けられた。また、メロディベルは、ベルの中のバネが引っ張られて、演奏に適さないほど伸びきって音がでない状況だった。

このため、貴財団の助成を活用して、買い替えの必要性の高い楽器の購入をさせて頂いた。また、この機会に、今後ミュージックセラピーで有効に活用できそうな楽器も同時に購入する計画を立てた。購入計画立案には、ミュージックセラピストの協力を仰ぎ、HELP におけるミュージックセラピーで利用可能性が高く、その効果が期待されるものに厳選するよう努めた。

具体的には、ギター（1本）、トーンチャイム（1セット）、ジャンベ（アフリカの打楽器、1個）、カリンバ（2）、メロディベル（1）、ハンドドラム（2）、オーシャンドラム（1）などである。





上から
トーンチャイム
ジャンベ・カリ
ンバ等
メロディーベル



上 ハンドドラム

下 オーシャンドラム

購入楽器は、購入以後、通常のセラピーセッションや2016年12月のクリスマス会で活用されている。特に、トーンチャイムの美しい音色の奏でるクリスマスソングは、参加者全員の気持ちを和らげることに貢献した。

3. 活動の成果

1) 季節行事

従来 HELP が実施してきた季節行事は、主に退所者を中心とし、施設入所中の方たちがその一部として参加する形で実施してきた。その際には、すでに HELP を退所し、自立へのプロセスを歩む渦中にある多数の退所者の話を聞くことにスタッフのエネルギーは注がれがちであり、行事の中で、入所者と関わることはなかなか困難であった。

しかし、今回、施設入所中の方を中心（主役）とした少人数のお出かけ行事を企画することが出来たため、日頃の限られた施設空間と異なる場所で、入所者が直面して

いる生活課題に関連した「支援する」「される」関係を超えて、楽しい時を共有することが出来た。

お出かけ行事の実施時間そのものはとても短いながら、それが各行事の参加者に与えたインパクトは絶大なものであり、各参加者の生活課題に取り組む意欲を飛躍的に高めるものであることを学ばされた。入所者を中心としたお出かけ行事の有用性を改めて知り、今後も財政事情が許せば、また実施したいと願うようになった。

2) その他

その他、ハローウィン用コスチュームやミュージックセラピー用楽器は、本助成事業期間中のみならず、今後数年間利用可能な財産として、購入できたことを大変ありがたいと感謝している。

4. 今後の課題

入所者を中心としたお出かけ行事を実施して見えた課題は、緊急一時保護施設である **HELP** は、滞在期間が短期であるため、企画段階で想定している参加者は、実施日にはすでに退所していることがほとんどであり、参加者の属性による配慮事項が直前になるまで不透明であることである。

また、入所者が本来取り組むべき課題に伴う外出予定や、**HELP** スタッフがなすべき業務の予定が時々刻々と追加されたり、当日になってキャンセルの申出があったりと、参加人数についても直前まで確定できず、予約をする行事の企画は困難で、ややプログラム内容が単調となった。今後は、予約なしで実施できる多様なプログラムの開発に努めていきたい。